

# 令和2年度高知大学大学院の教育組織改革について

1<sup>st</sup> Step  
学士課程

医学部  
↓  
医師・看護師養成の充実

H27新設

地域協働学部

H27再編  
教育学部  
↓  
教員養成課程への特化

H28再編  
人文学部  
↓  
人文社会科学部

H28再編  
農学部  
↓  
農林海洋科学部

H29再編  
理学部  
↓  
理工学部

各学部の 強み・特色 を活かし、「地域協働による教育」を通じた人材育成の基盤を構築

## 学士課程での改革・機能強化を最大化させる大学院段階（修士課程）での組織再編

H28・30コース新設

医学分野の新たなニーズに対応したコース設置  
高度な医学研究の推進



公衆衛生学コース設置  
MD-PhDコース設置  
医学発 創薬研究の充実

H30新設

中核教員の養成  
理論と実践の融合  
県教委との密な連携



教職大学院  
(教職実践高度化専攻)

カリキュラム改革

文化・社会の深い洞察力の養成、新たな時代の担い手を育成



人文社会科学専攻

(入学定員: 8名)

R2新設

地方創生推進での新たな課題に対応できる修士課程レベルの人材の育成



地域協働学専攻

(入学定員: 3名)

R2改組

農学と海洋科学の連携も視野に地域のニーズに対応できる人材の育成

農学専攻

↓  
農林海洋科学専攻  
(入学定員: 55名)

R2改組

地域のイノベーションや地域づくりを支える理工系人材の育成

理学専攻

↓  
理工学専攻  
(入学定員: 55名)

### 地域協働学専攻

学位：修士(地域協働学)

#### 【養成する人材像】

①地域協働リーダーの継続的養成、②地域長期ビジョンの策定及び住民との共有、③地域における新たな資源の開発・活用を実現することができる人材

#### 【カリキュラム・研究指導の特色】

- 養成する人材像に対応した「専攻共通科目」の配置  
「地域協働教育演習」…人材像①の基礎を形成  
「地域ビジョン策定演習」…人材像②の基礎を形成  
「マーケットリサーチ演習」…人材像③の基礎を形成
- 「専攻ゼミナール科目」と「研究指導科目」の連携による院生の地域協働実践と融合した研究指導の展開  
「専攻ゼミナール科目」(ゼミナール I ~ IV) の役割  
院生の地域協働実践に係る定期報告・指導  
実践的な研究データを修士論文研究に提供  
「専攻ゼミナール科目」の研究指導上の位置づけ  
「研究指導科目」での修士論文研究の報告  
複数教員 (4 ~ 6名) による多角的な指導

### 農林海洋科学専攻

学位：修士（農学）、修士（海洋科学）

#### 【養成する人材像】

農学又は海洋科学の専門知識を基盤として、陸・海域からの資源の安定的確保、資源の開発・獲得及び高度有効利用に係る技術の開発、生産環境及び地域・地球環境の保全・修復により、人間社会・地域社会の持続的発展に貢献できる高度専門職業人

#### 【カリキュラム・研究指導の特色】

- 農学・海洋科学それぞれの専門分野の学修とともに、領域横断的な科目を必修科目で配置  
必修科目「農林海洋科学総論」  
必修科目「海洋・陸域の環境と資源の科学」  
必修科目「実践里海再生学特論」
- 地域の課題に対応した「専攻共通科目」の配置  
「Internet of Plantsセミナー」
- 領域横断的な研究指導体制による修士論文研究  
「農学分野教員」×「海洋科学分野教員」

### 理工学専攻

学位：修士（理学）、修士（理工学）

#### 【養成する人材像】

基礎理学の素養を持ち、地域の活性化に欠かせない地域イノベーションの創出や持続可能な地域づくり、災害に強い地域づくりに貢献できる高度専門職業人

#### 【カリキュラム・研究指導の特色】

- 学外の社会人・企業人等と連携した実践的な研究企画・立案能力、プレゼンテーション能力の育成  
必修科目「リサーチプロポーザル」
- 数学物理学・生物科学・情報科学・化学生命理工学・地球環境防災学の各分野の専門を深化させる教育体系を基盤とし、「専攻共通科目」「コース間連携科目」を通じて学際的な学修も可能となる教育課程
- 複数の学問領域から指導教員（主： 1名、副： 2名）を配置する多角的・複眼的な研究指導体制

2<sup>nd</sup> Step  
大学院  
修士課程